



とちのみ通信

VOL. 12

2026 年 6 月 生活介護事業所とちのみ 〒191-0033 東京都日野市百草 1042-21 <https://mogusa-asunaro.jp/seikatu> MAIL: tochinomi@kashima-kaihatsu.co.jp TEL:042-506-5780

日頃より、とちのみの活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
大切なお知らせと行事の様子などをお伝えします。

施設長よりごあいさつ

いつも大変お世話になっております。

2 月から、とちのみ施設長が、有澤に代わりました。これまでの良いところは更に伸ばし、変えていくところは、職員間でよく話しあいながら進んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。運営方針としては、「本人主体」「利用者の方とは、成人の大人と同じように接する（その方にあった工夫はいたします）」「年間の行事は数より質を高める」等決めさせていただきました。

以前も家族会にてお話しさせていただきましたが、私は、主に知的障害の方の入所施設に 30 年働いていました。その経験を書かせていただきます。

障害をお持ちのご家族（特にお母様たち）は、小さな時からほぼご自身でお子様たちを必死に育て、守って来たことは大変だったと思います。いろいろなサービスが揃ってきた今でも何か一つ足りない、不十分さを抱えながら頑張っていらっしゃることと思います。

私が入所施設で経験したことの一つに、ご家族の状況の変化等でいきなり緊急入所した方の事例があります。毎日、髪の毛がごそっと抜けてしまった方、食事を拒否し大声で叫ぶ方、玄関から離れず「マンションに帰ります」と何度も出ていってしまふ方、お風呂の拒否、着替えの拒否など・・・ほぼ 50 代の方でした。自分の状況を受け入れられず必死で抵抗されていて私も胸が苦しなった記憶は今でも消えません。

どうしたら良かったのか？

ではどんな方がさほど苦労しないで、施設の暮らしを受け入れられたのか。

自分の気持ちを伝えられる人。（言葉だけではなく） 自分の時間を過ごせる人。人に執着せずマイペースな人。だと



思います。

ただ、そんな方は少数ですが・・・

とちのみの利用者の方は若くてあまり現実味のない話しだと思います。しかし、今から少しずつ親離れ子離れして行ってください。とちのみもその中の一つですが、お子様たちの委ね先をたくさん増やすことが大事です。若いうちから親離れを始めた人は、親から離れて暮らす時、さほど苦労しないで現実を受け入れられる強みを持つことができます。

例えば、やえざくらの利用者の方のお母さんは 80 代 90 代の方も多く 60 歳を過ぎたお子様を「私にとっては子どもは子どもなんです」とおっしゃいます。お気持ちは良くわかりますが、「私たちにお任せください」と伝えていきます。

とちのみのお母様たちにも、「ぜひ、とちのみ職員にお任せください。」と伝えたいです。

個々の職員の力は不足する部分もありますが。みんなでチームとして互いをおぎあいながらしっかり関わっていきます。不安、心配はあると思いますが、とちのみの利用者の方が将来辛い思いをなるべくしないようにと思ひましてもう一度お伝えさせていただきました。



「やえざくら通信」に掲載された貴嶋管理者の「親って何者？」を本誌に転載しますので、ぜひ併せてお読みください。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

有澤 浩子



すし 銚子丸

出張回転寿司・出張寿司

1 年間、日々の活動やお仕事を一生懸命頑張ってきた皆さんへ、感謝と労いの気持ちを込めて「出張回転ずし」を開催しました。

目の前でプロが握る本格的なお寿司に、参加した皆さんは大興奮！「美味しい！」「お疲れ様！」とお互いを称え合いながら、お腹も心も大満足の笑顔溢れるひとときとなりました。





入所式

4月10日、令和8年度の入所式が執り行われました。今年度は、七生特別支援学校を卒業したフレッシュな2名と他事業所より異動してきた1名の計3名の新入所員を迎えることができました。辞令と作業用のビブスをちょっぴり恥ずかしそうに受け取る姿が、なんとも初々しくて微笑ましかったです。その誇らしげで頼もしい笑顔に、迎える側の私たちも「これから一緒に頑張ろう!」と、改めて身が引き締まる思いがしました。



U.M さん 河西 凰峨さん 末永 啓太さん



訪問美容

6/11（木）は訪問美容の日で、髪をすっきりとカットしていただきました。

「さっぱりするね」と、とても嬉しそうに鏡を眺めていらっしゃいました。カットが終わると、新しくなったヘアスタイルに大満足された様子で、周りのスタッフにも「どう？ 似合う？」と満面の笑みで披露してくださいました。髪型が変わると気分もパッと明るくなりますね。素敵に変身された後の、とても晴れやかな表情が印象的でした。今後も定期的に訪問美容を実施する予定です。カットだけでなくカラーも可能です！





嘱託医

2 月より、皆さんの健康相談等に対応してくださる嘱託医の先生が変更となりました。

百草の森ふれあいクリニック

院長 岩田 和也 先生

来所日：毎月 第 3 水曜日（昼の時間帯）

病院に行くほどではないけれどちょっと気になることや、先生に相談したいことがございましたら、事前に連絡帳にてお気軽にお申し出ください。



昼食



これまで、とちのみでの昼食は「ジョイント」より提供しておりましたが、5 月 11 日より新しい形での昼食がスタートしています！

おかずの発注先を新しく「夢ふうせん」へと変更し、これまで以上にお野菜がたっぷりと入った、栄養満点で彩り豊かなメニューをお楽しみいただけるようになりました。さらに、ご飯とお味噌汁は「とちのみ」の厨房で手

作りした、出来たての美味しさを提供しています。また、毎日の食事をより美味しく、心地よく味わっていただくために、食器を温かみのある陶器へとリニューアルいたしました。このリニューアルを迎えてから、お昼の時間になると、とちのみにはたくさんの笑顔があふれています。新しくなったお食事を口にして、「美味しい！」と皆さん本当に嬉しそうに喜んでくださっています。





みんなでストレッチ

5月から、ストレッチの先生をお迎えして、新しいプログラムがスタートしました！

音楽に合わせて軽快なリズムにのり、先生の丁寧な指導のもとで全身をしっかりと動かしていきます。普段なかなか運動をしない人でも、負担なく楽しく体を動かせるプログラムです。

参加されている皆さんの表情はいつも生き生きとしており、音楽に合わせて笑顔で体を動かされている姿がとても印象的です。

今後も定期的開催していく予定です！

次回開催日：7/6（月）13:30～



新しい職員の挨拶



堀田 心一

3月から勤務しています、堀田心一です。福祉、介護の仕事は初めてですが、利用者の皆様と楽しく過ごし、利用者への介助を丁寧に行うよう心がけていきます。まだ学ぶことの多い身ですが、一生懸命やっていきます。よろしくお願い致します。



佐久本 珍全

2月から配膳係として勤務させて頂いております佐久本 珍全と申します。週3日、4～5時間の勤務ですが、お昼の配膳は利用者様の健康管理に大切な部署と感じており、初めての経験ではありますが職員の方々の指導の下、日々悪戦苦闘しています。



小川 愛

給食を担当しています。

利用者の皆さんが安心して楽しく過ごせるよう、笑顔で元気に取り組みます。今後は、社会福祉士の知識を活かし、支援にも積極的に関わっていききたいと思います。よろしくお願い致します。



『親って何者・・・？』

グループホーム やえざくら職員 貴嶋



私は4人の子どもの親です。自分の価値観に合わない娘を理解せず心の病に陥らせてしまったヤバい経験を持っています。その娘の激しい反発、ダメ出しを受けて反省し（自分のやり方が間違っていたと思うに至るまでは苦しかったです。）一応、娘は社会生活ができるまでになりました。全て娘が乗り越えた結果と思っています。そんな私が障がいを持つ親御さんとかかわる仕事をさせていただいていますが、同じ親として「きっとどれだけの苦労や辛い思いがあったのだろうか。心配で心配で仕方がない気持ちなんだろうな。」と思います。ところがどっこい、私がかかわらせていただいた施設やグループホームに入居されている利用者の皆さんは、それは、それは、たくましく意外としたたかでその環境に上手に適合すべく嫌いなスタッフに反発し、思いが伝わらなければ暴れてみたり、脱いでみたり、倒れてみたり、漏らしてみたり、吐いてみたり・・・WWW 支援者はそんな行動を不適・不穏行動としていますが、私の経験から私達が対応を変えると（反省しご本人の思いを考え理解しようと頑張ると。）みるみると不適切行動がなくなるのです。うるさい関わり方、上から目線、管理的なやり方に反発が多いように思います。まあ、普通そうですよね。だから、支援者側から「ああせい。こうせい。」をなるべく言わないようにしています。皆さん、指示されないので自分の思いを自分で示すようになります。私達は訴えて来られたことを実現できるようにしていきます。すると、信頼関係ができてきて私達の言うことにも反発しなくなるのです。ところが、親御さんは子どもが、30歳でも40歳でも60歳になっても「知的障害者」表現できない子どもとして「この子はこうなんです。」と言い続けます。「親である私こそがすべてを知っている。」と。「代弁者である。」と。

あるグループホームで出会った重度のFさん（40代）は大声を上げ生活介護へ行きません。職員はお菓子やコーヒーで赤ちゃんをあやすように毎日必死で送り出していましたが、ある時、生活介護で支払われる給料（数百円）を本人に渡したら（ずっと親御さんが受け取っていました。）普通に行くようになりました。実は子どもじゃありません。コミュニティの中で成長しています。ましてやグループホームという共同生活の中で何年も暮らしているのですから自分を変え、人に合わせ、自分の思いを示していかなければ生きられません。皆、大人の感性を持ち、親には見せない自立心の姿があるのです。

障害者の親が過保護だの過干渉だのと避難されないのは何故でしょう。障がい者も過干渉が大嫌いですよ。親だとしてもその子どもの心の奥底の尊厳には踏み込んではいけないと思います。今ある姿は全て本人の努力であり乗り越えた姿です。

グループホームという親が経験したことのないコミュニティを住まいとして自立した暮らしをしているのです。なんと親孝行な姿でしょう。

親の皆様、大人になった我が子を誇りに思うとともに手放して上げてください。信じて見守ることこそが「親なき後の暮らし」を実現に導く親の使命かと私もようやく思えるようになりました。親の思いは尽きませんが親とは違う一人の人格者ですから。